

# 隠れ家みつけた

## 洋食亭 「ウエダ」

### 町の概要と店舗周辺の景観

マーチングバンドで世界に名だたる人口約3万5千人の「文教の町西原」。域内には琉球大学や付属病院、沖縄キリスト教大学があり、県下有数の人口急増地域として日々活況



オーナーの上田晃一(こういち)さんを呈する町だ。洋食亭「ウエダ」は中城湾や与那原町一帯を見下ろせる景観を強みとする洋食レストランだ。

### 経営者のプロフィール

笑顔の絶えない好青年の「上田晃一」さん34歳。創業2年まもないが料理の経験は15年以上と長きに渡る。上田さんは兵庫県生まれ、料理店経営を夢見て修行に邁進中、阪神淡路大震災に遭遇した。その後沖縄で飲食店を経営する親族を頼って移住を決断。沖縄で10年にわたり料理一筋に打ち込み精進を重ねた。

### 料理にこだわるお店を

上田さんは「関西では庶民風ながら料理にこだわる洋食店がある。」と言う。30数年前までは沖縄でも上田さんの描くコーヒー専門店などの店が、国際通り辺りで一世を風靡した時代があったが、時代の波に逆らえず大半がゲーム喫茶と化していった。「本来ある洋食屋を経営してみたい」とこだわりの洋食屋の創業を秘かに夢見ていた。

### 商工会との出会い

平成19年の暮れ、妻の美和さんの知人が所有する空き飲食店舗を紹介された。その店舗は琉球大学や付属病院が近くにある好立地と与那原町を一望する景観を有していた。それが気に入り上田さんは創業を決意、翌20年1月待望の「洋食亭ウエダ」を開業した。開業当初は元々店舗にあった設備・備品を使用していたが、老朽化がひどく予想以上の光熱費に悩まされた。しばらくしてエアコンが故障、クチコミでお客様が増えると3名体制のキッチンの導線も気になり出した。「業務効率化のため設備改善資金を調達したい」相談のため商工会を訪ねた。幸い平成20年4月からマル経資金の設備資金が飲食店にも拡充されたことを聞き、商工会に加入、設備改善の融資に向けて期待が膨らんだ。

店舗名 洋食亭 「ウエダ」  
代表 上田 晃一氏 34歳  
住所 沖縄県中頭郡西原町上原260-2 グラントレ山301  
電話 098-894-3455

洋食亭  
ウエダ

URL <http://r.gnavi.co.jp/f350500/>

### マル経資金の有効活用

無担保、無保証のマル経資金について指導員から説明を受け、最初は本当に受けられるのか心配だったが、自身のコンセプトや店舗経営の様子、原価管理、売上予測などの計数管理を見た指導員は、融資斡旋してくれるとの心強い返事があった。指導員のアドバイスのもと、融資に必要な関係書類を揃え、エアコン2機、冷蔵ショーケース、キッチンの改装を用途にマル経資金の申し込みを申請した。

### マル経資金の効果

マル経資金の融資によって希望どおりの店舗設備の改装、備品等の入れ替えが進み、月1,100名のお客様に対応できるようになったと同時に、月3万円の光熱費の削減が図れようになった。光熱費の削減分は、納入業者にハンバーグの合びき肉の配合割合、引く回数を多くするよう加工を変え、より良い食材の調達に回している。「一番良かったのは、借り入れの申し込みから融資実行までの期間が短く、計画どおりに進みお客様にご迷惑をおかけしなかったことです。」と語った。

### 改装後の営業展開

今後の営業展開について上田さんは、「息の長い店、思い出のある店」を目指し、幼い頃味わった食事が、中高生、社会人になってもお客様の記憶に残る忘れられない味となるようメニューにこだわり続けていきたいと語った。



オリジナルハンバーグ (ランチタイムのみ) ¥980円

### ★お菓子をくれなきやイタズラしちゃうぞ★



### チビッコハロウィンがお目見え

10月30日、産業支援センター内保育園、ペリー保育園合同企画のハロウィン行列(園児41名)が産業支援センターの各事務所を訪れた。連合会のフロアには3~4才児の園児たち18名がカボチャの妖精や、エイサー・チョンダラーなどの魔法使いに変装し、迎えた女子事務職員たちに「トリック・オア・トリート」と大きな声でお菓子をおねだりしていた。愛くるしい園児達の姿に事務所の雰囲気もリラックスモードに包まれた。本園では管内問わず随時、園児を募集している。詳しいお問い合わせは098-857-2785(沖縄産業支援センター内保育園まで)



ハロウィンに仮装したかわいい園児たち